令和６年４月２日

静岡県社会部記者室、浜松市政記者室　　御中

国立大学法人静岡大学

静岡大学と LIXIL が共同研究を実施
― 学校でのケガの当事者意識を促す安全教育プログラムの開発 ―

静岡大学教育学部塩田研究室は、株式会社 LIXIL と共同で、「自分がケガをしてしまう場面」を考える場面強制想像法を用いて、小学生のリスクの当事者意識や安全意識を高めることをねらいとした安全教育プログラムの開発に取り組みました。本リリースでは、プログラムの内容詳細と静岡県の浜松市立気賀小学校で実施した本プログラムの様子についてご報告致します。なお、本教材は 4/1（月）より静岡大学教育学部塩田研究室のホームページ上で公開し、教育関係者や旅行業界の皆様は無料でダウンロードしてご活用いただくことが可能です。

【取り組みの背景】

従来の小学校保健「けがの防止」に関する授業や安全教育プログラムでは、けがの防止に向けた KYT（危険予知トレーニング）シートや応急処置などの授業が取り組まれてきました。しかし、けがの防止について児童らが当事者意識を持つことが難しく、自分事として考えることが難しい、と指摘されています。そこで、本研究では、身の周りのけがについて児童らが当事者意識を持つことを目的としたプログラムを開発することとしました。

【取り組み内容】

本研究は、2 つのポイントがあります。1 つ目は、ワークシート（下記）を使って「ケガをしてしまう場面」を想像することです。従来の安全教育はトラブル事例を提示し、怖がらせる授業となってしまい、ケガを自分事として捉えさせることが困難でした。そこで本教材は「どこで」「なにがどのように」「気持ち」のキーワードから「自分がケガをしてしまう場面」を考えることで、いくつかの要因が重なると「自分がケガをしてしまうかもしれない」と、ケガを自分事化することができます。2 つ目は、対策アイデアの考え方を学ぶことです。子ども達が対策を考える時に、「ケガをしてしまう場面」を分析したことで、その要因に沿った具体的な対策アイデアを考えることができます。また、場面強制想像法やアイデア検討などのワークショップ型の授業とすることで、楽しく学べる安全教育となります。本プログラムの成果は、裏面をご参照ください。

▲静岡県浜松市立気賀小学校での授業の様子（気賀小学校の WEB より引用）
https://weblog.city.hamamatsu-szo.ed.jp/kiga-e/index7.html

■本件に関する問い合わせ先

静岡大学　教育学部　　准教授　塩田真吾
TEL ： 054-238-4673
E-mail：shizuoka.shiota.lab[at]gmail.com
※[at]を@に変更してご利用ください。

【本プログラムの成果】

本授業の事前と事後において、児童らにアンケートを行いました。「自分がどんな気持ちのときにケガを起こしやすいかわかっている」という質問に５段階で回答してもらった結果、１組では授業事前が平均 2.98 点から授業事後が 4.29 点となり、「周りがどんな状況のときにケガを起こしやすいかわかっている」という質問に対しては、授業が 3.41 点から授業事後が 4.16 点で、有意に増加したことが明らかとなりました。その他のクラスでも同様の結果が得られています。こうした結果から、本プログラムを通して安全意識が醸成されたと言えます。

さらに、「私は，教室で『ケガをしてしまう可能性がある』と思う」という質問では、１組では授業事前が平均 2.95 点から授業事後が 4.08 点となり、有意に増加したことが明らかになりました。その他のクラスでも同様の結果が得られています。したがって、けがへの自覚を促せたと言えます。このように児童らが学校でのけがに対し当事者意識を持つことで、けがの予防につながると考えられます。

また、児童らの自由記述では以下のような記述がありました。

「どこでけがしやすいのかわかったし、けがをするのは自分や友達だけではなく周りの環境も原因があるということが分かったのでこれからは自分でもケガをしないようにさせないように気をつけたいです。」

「けががおこりやすい場所が分かった。自分がケガをしやすい場所が分かったので、自分の気持ち、行動や環境を変えるなど工夫があるとわかったので気をつけていきたい。」

このように、授業に参加したことで、けがの背後要因やけがの防止に向けた対策への意欲が高まった様子が伺えます。

【LIXIL 担当者のコメント】

株式会社LIXIL の安全･品質統括部では、「家の中や学校での事故」をテーマに子どもたちのリスクリテラシーを育ませるために、学校への教材配布や出前授業を展開してきており、その教材開発において静岡大学塩田研究室とのカリキュラム開発は本作で２作目となります。

これまでの教材においても、子どもたちは、楽しみながら積極的に手を挙げ、発言し、先生方からの評判も良い中で運営することができています。一方で、「発生する事故」に対する認識をもっと「自分事」として捉えさせ、事故回避能力を高めるための教材を作りたいとの思いから、今回の開発に至りました。

今回のカリキュラムは従来の「事故を起こさない、起こらないため」という視点ではなく「自分が事故に遭うとしたらどんなシチュエーション（場面）か」を考えその時の「気持ち」「状態（環境)」を理解し対策を考える新たな視点でのカリキュラムとなっています。

これまでの実施結果（アンケート）からも狙い通りの成果が出現しており、子どもたちのリスクリテラシー醸成のための新たな一助となることを期待しています。

LIXIL は、新たな出前授業の一つとして学校に出向き実施する予定。さらに従来の出前授業とセットで、シリーズものとしても展開を予定しています。

教材 URL

https://shiotashingo.main.jp/

参考資料

■場面強制想像法を用いたワークシート

自分がケガをするのはどんな時？
- リスクを予測する力を身につけよう -

株式会社 LIXIL × 静岡大学教育学部塩田研究室

年　　組　　名前

教室で起きるケガの分析

皆さんの教室は「どこで」ケガが起きやすいだろう？

①前　②中　③後ろ　④窓際　⑤ドア

起きにくい	起きやすい

ケガをしてしまいそうな場面を考えよう

自分が休み時間に教室で転んでケガをするとしたら どのような場面だろう？

どこで	①前の方で　②真ん中の方で　③後ろの方で　④窓際で　⑤ドアの近くで ⑥自分の席で　⑦友達の席で
何が	⑧机　⑨イス　⑩カバン　⑪段差　⑫窓　⑬シャーペン ⑭ドア　⑮ボール　⑯友達　⑰クラスメイト
どのように	⑱ひっかかって　⑲ぶつかって　⑳押されて　㉑よけて　㉒遊びで ㉓すべって　㉔投げて　㉕追いかけて　㉖追いかけられて ㉗走って　㉘その他　（　　）
気持ち	㉙そわそわ　㉚イライラ　㉛モヤモヤ　㉜ウキウキ　㉝ワクワク ㉞ぼーっとして　㉟夢中で　㊱怒って　㊲あせって　㊳どんより ㊴悲しい　㊵楽しい　㊶その他　（　　）

上のキーワードを使って場面を書いてみよう

なぜ（　　）のだろう？

なぜ	①友達　②先生　③ネットやゲーム　④行事の日　⑤休みの前後の日 ⑥ルール　⑦チャイム　⑧習い事　⑨ふざけて　⑩ケンカして ⑪からかわれて　⑫急いで　⑬怒られて　⑭疲れて ⑮その他　（　　）